

徳島県総合計画審議会 会議録

I 日時 令和3年2月4日(木) 午前10時45分～午後0時15分

II 場所 徳島グランヴィリオホテル

III 出席者(委員44名中35名出席)

(委員)

山中英生会長、金貞均副会長、中央子副会長、藍原理津子委員、青木正繁委員、井上知美委員、大森千夏委員、梯学委員、唐崎(檜)千尋委員、川原義朗委員、久米清美委員、小谷憲市委員、小林通伸委員、近藤洋祐委員、榊野千秋委員、齒朶山加代委員、清水康代委員、瀬尾規子委員、高橋啓子委員、近森由記子委員、寺内カツコ委員、内藤佐和子委員、林弘祥委員、布川徹委員、福山徳委員、松浦ひろみ委員、松崎美穂子委員、松永好史委員、真鍋恵美子委員、真鍋浩章委員、三谷茂樹委員、宮本浩子委員、森本和代委員、山上敦子委員、吉尾さだえ委員

(県)

知事、政策監補兼政策創造部長、各部局副部長 ほか

IV 議題

1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて

2 その他

<配布資料>

資料1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の令和3年度に向けた見直し(案)について

資料2 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』見直しシート

資料3-1 令和3年度版『『未知への挑戦』とくしま行動計画』重点指標一覧

資料3-2 令和3年度版行動計画編「数値目標」一覧表

資料4 県政運営評価戦略会議からの「ターゲットごとの意見・提言」への対応方針等

資料5 県政運営評価戦略会議で採択された「県民からの優れた意見・提言」への対応方針等

資料6 「総合計画審議会」(令和2年12月1日)における委員意見への対応内容

資料7 『『未知への挑戦』推進部会』(令和2年12月4日)における委員意見への対応内容

資料8 対話集会「新未来セッションNEO・2020」意見への対応内容

V 会議録

1 『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて

- ・「未知への挑戦」推進部会での審議内容について、金部会長(副会長)から報告
- ・事務局より『『未知への挑戦』とくしま行動計画』の見直しについて、資料1、資料3-1等により説明

その後、意見交換が行われた。

<意見交換>

(山中会長)

それでは、どなたからでも結構ですので、ご意見をよろしくお願い致します。

青木委員、お願いします。

(青木委員)

青木でございます。早口で話させていただきます。まずはぎりぎりまで資料の作成、県の皆様大変ありがとうございました。感謝申し上げます。何はともあれコロナ禍でございますので、まずは飯泉知事をリーダーとして全集中で、感染症対策、ワクチンに向けてしっかりとお願いしたいと考えております。私の発言としては、3点ございます。

まず1点目はデジタルです。デジタルについては、やはり計画の中でテレワークをもっと分母を増やすことが、ネットワーク社会の利点を活かして、住居を徳島に限らず、様々な地域の企業に就業できる環境戦略に反映させることがますます必要だと考えております。特に自然災害や新型コロナの影響でBCPを策定することも求められておりますので、このデジタル化の進展によって、そういったことが可能だと考えております。それと同時に若い世代の就労の場・働く場を、この新しいニューノーマルの時代に即した柔軟さと強さを兼ね揃えた雇用を生み出すことが、地方創生の目指すべき方向性だと考えてございます。

2点目は観光でございます。観光は専門ではありませんが、あえて申し上げさせていただきます。先ほどの事務局の説明の中でも、アワーケーションを進めていると感じております。私の住む県南部または県西部でもワーケーション、ワークとバケーションを組み合わせた造語で、観光やリゾート地で休暇を取りながらテレワークをする働き方のことを示します。是非ともこのアワーケーションをしっかりと進めていただいて、県南部・県西部をはじめとする県内の新しい働き方の1つの施策として入れていただきたいと考えております。それと同時に、昨年からマイクロツーリズムが流行ってきているのも感じておりますので、やはり地元を見直す新たな旅行のスタイルといった点で、コロナ禍は地域の魅力の再発見といった視点を入れていただきたい。南から西、西から南、また東から西・南といった県内での需要をもう少し拡充していただければと思います。それとコロナ禍を悲観するだけではなくて、県民のみんなが一緒に応援するんだという機運を醸成するようなプロモーションをお願いしたいと考えてございます。やはり地域のつながりを大切にしたい徳島LOVEな社会的機運の醸成が、この計画には私は必要だと考えてございます。

最後に、やはりイベントと経済の両立ですね。新聞報道等でも知っておりますが、感染対策をしっかりと、できる経済の活動とコロナ禍のイベント運営というのは、もう少し踏み込んでできることは考えていきながら、もちろん感染対策はしっかりとしていかなければならない、だけど経済も。といった視点というのは、今の世の中には大事なことなのかなと一県民として考えてございます。是非とも7季ぶり2度目のJ1、徳島ヴォルティスを始めとして夢と希望のある徳島のプロスポーツのイベントはたくさんありますので、是非とも私一県民としてもこれからも応援して参りたいと考えてございます。ほぼ一分でございます。ありがとうございました。

(山中会長)

テレワークと観光のマイクロツーリズムのイベントをもっと果敢にやっっていこうというご意見でした。

梯委員、お願いします。

(梯委員)

青木委員さんから、観光ということでご発言いただきましたので、日本旅館協会の梯でございます。どうぞよろしく申し上げます。資料1の4ページですけれども、時間軸を入れていただきまして、これからの課題を上手に絵図化していただきまして、非常にわかりやすいかなと思っております。我々、観光業といたしましては、去年から宿泊のお客様が減ったりとか、徳島県にお越しいただくお客様が減ったりだとかで、非常に困難な状況の中にいるんですけれども。かといって、いつまでも悲観しているわけにもいきませんので、令和3年度以降につきまして、また改めて、先を見据えたもう少し近場の光をお示しいただくことによって、まだまだWITHコロナという時代の中で、少し光を持ちながら前を向いて事業を進めていければいいかなと思っております。

それと、人口減少ということで、コロナの前、プレコロナといいますか、やはりインバウンドに非常に力を入れた施策をしていただいています。去年度、今年度はなかなかインバウンドという施策を打ちにくいと思うのですが、最終的には人口減少を見据える中で、インバウンドというのは徳島県・四国にとって大切なことじゃないかなと思っておりますので、今年いかに種を撒いて令和4年度以降に花を咲かせていくのかという施策をもう少し盛り込んでいただきまして、少しでも光を我々の業界に与えていただけたらと思います。

もう1つは、今回のコロナの関係で時間の流れのスピードが速くなったのかなど。従来であればオンラインの会議であったり、もう少し時間をかけて進めていく施策だったのではないかなと思うのですが、一気にオンラインが進んだりとか、バーチャルやリアルといった文言もどんどん溢れてはきているのですが、なかなか業界としてついていけない部分も多少は出てくると思いますので、そのあたりは県でどんどん施策を進めていってもらうのはありがたいんですが、少し業界の事情といいますか、もうすこし丁寧にわかりやすく、こういうことをやっていくからついて来いよという情報発信を少し丁寧にやっただくと、我々も理解を進めやすいのではないかなと思っておりますので。特に今年度はアフターコロナを見据えまして、いろんな施策を打っていただけるとは思わないかと思うのですが、それにつきましては情報発信などを、細かく我々業界であったり、観光業界・旅行業界といった業界に落とし込んでいただけたら非常にありがたいと思っております。

(山中会長)

観光業に関しては、おっしゃるように少し鬱積していると言いますか、需要としてはまた爆発してくるのではないかと、みなさん今は悶々とされていると思っておりますので、是非維持をしていただいて、次の戦略を打っていただければと思ひ、お聞きしておりました。

久米委員、お願いします。

(久米委員)

2点ほどお願いいたします。1点目は障がい者の就労関係でございます。2点目はデジタル化の問題でございます。

第1点目は、障がい者就労支援でございますけれども、障がい者が地域社会・共生社会において生きていくためには、どうしても就労というのが非常に大事になってこようかと思えます。県行政のおかげをもちまして、このB型の就労につきましても、従来全国2位でございましたけれども、平成30年・令和元年度と2年間続けて、障がい者の月額工賃が全国第1位を占めております。私どもの障害者支援施設眉山園の「かもな」におきましては、四国の480事業所ある中で、第1位を占めているということで、これは県等々のご支援のおかげでございますが、ただコロナ禍の中で、就労支援事業所が大変なことになっております。しかしながら、老人福祉施設でありますとか、近隣の方々のご支援をもって、今やっとコロナから立ち直った所でございますので、県行政のさらなるご支援をお願いをしておきたいと思えます。

2つ目のデジタル化でございますけれども、国の方ではデジタル庁が発足する予定でありまして、デジタル化の方向に進んでおりますけれども、特別支援学校におけるデジタル教育でございますが、これ大変なことございまして、なかなか先生方がデジタルについていけるのか、教育力があるのかという点でも心配をしております、特に視覚障がい者のデジタル利用につきましても、特に音声エンジンを使って、パソコンを動かしておりますので、そういった点にもご配慮いただいて、特別支援学校のデジタル化教育についても、県行政のご配慮を賜りたいと思っております。以上です。よろしくお願いいたします。

(山中会長)

2点ご指摘いただきました。

林委員、お願いします。

(林委員)

社会福祉法人悠林舎の林と申します。よろしくお願いいたします。障がい者支援、また徳島eスポーツ協会の事務局も担当させていただいてるんですけども、先日は徳島県の方で、オンラインで障がい者のeスポーツ大会の全国大会を開催していただき、誠にありがとうございました。障がい者の方も、やはりなかなか外に出る機会を失っているということで、このようなオンラインで安心しながら、また緊張感をもって活動できたということで、非常に充実した活動となっておりますので感謝申し上げます。経済活動を止めずにコロナ対策もしていくということで、徳島ニューノーマル映画祭を検討いただいているということなんですが、eスポーツ協会の方も連携して、当日イベントを運営するというので、三密を避けて面的に広く開催することで、一か所に人が集中することなく、ニューノーマルな形で開催することができるのではないかと進めていっております。県民の皆様には、やはりコロナ対策はしっかりしていけないといけないのですが、全て色々止めていくだけではなくて、実証実験というところもありますので、是非ご理解・ご協力いただければと思います。

もう1点なんですが、我々プラット・アート・プロジェクトということで、障がい者の

方又は障がいのない方とアート活動をしておりまして、知事にも1回目から見ていただいているのですが、こちら非常にニューノーマルに対応しやすい内容かなと思っておりまして、ワークショップもオンラインでしたり、展覧会も長きにわたってできますので、一日だけではなくて、人が少しずつ見ていただいたり、コロナ対策できる取組かなと思っております。こちら一人でひとつの作品を作るのではなくて、みんなで一つの作品を作るという全国的にも色々な人に聞くと珍しい取組と聞いておりますので、徳島のダイバーシティの先進性を発信するチャンスでもあるかなと思いますので、是非全国的に発信していただくと徳島の広報にも繋がりますし、また先程もありました障がい者の方々の工賃等につながるかなと思いますので、是非ご協力いただければと思います。以上2点です。

(山中会長)

e スポーツの話とプラット・アート・プロジェクトの話をしていただきました。
歯朶山委員、お願いします。

(歯朶山委員)

部落解放同盟の歯朶山と申します。よろしくお願ひいたします。私の方からは2点お願ひしたいと思ひます。1点目は人権啓発に関わってなのですが、特に昨年からのコロナについて、感染された方に大変な誹謗中傷がされているということ、そのことについて私は報道される度に胸を痛めております。このことは、やはり色々な差別が無くなっていないし、人々の意識が改善されてないということを目の当たりにさせられたということは、きっと女性差別もそうですし、障がい者差別もそうですし、部落差別もそうだと感じます。そういう意味では、差別を解決する新たな人権三法という法律ができていますけれども、それが十分に知られていませんし、定着していないことを痛感をいたします。ただ県の方では、そういう書き込みに対して、いち早くモニタリングをされるなど取組をされております。これは私どもが何年も前からネット上における部落差別の書き込みを監視してほしいとお願ひをして、知事が率先してモニタリングをしていただいた。そのすでにされているということが、すごく今回コロナ対策に役に立っているのではないかなと思ひます。それで昨年からのモニタリングをする人数も、今までにない人数を注いでいただひ続けていただひしております。ただ問題なのは、そういう書き込みを追跡していつて、どれほど削除させていくのかという所は、なかなか県民に知られる所ではありませんし、聞き及んでいる所には50%ぐらい削除できていると聞いています。この削除率というのは、あまりご存じないかもしれませんがかなり高い数値だと思ひます。そういう意味では先進的に取り組んでいただひしていることをありがたく思ひしておりますが、アフターコロナでも差別意識は続いていくと思ひますので、今の取組を水準を下げることなく継続していただくことをお願ひしたいと思ひます。

併せて、これもコロナ感染症に関してですけれども、私がすごく気にしているのは女性が働く所を失って、フードバンクなどに女性達がたくさん通っている。しかもシングルマザーが子どもを抱えて、職場を無くして本当に困っているという状態が報道もされていまして、女性の自死率は非常に低かったんですけども、コロナを通して女性の自死率がとても増えているということは、女性差別が今の社会にあるのか、併せて昨日のどなたかの

発言ではありませんが女性は云々という意識があります。私自身ももうすぐ70歳を迎えますけれども、その年代は、女はこういうものだと言われてまいりました。でも自分の人生経験を通して、女性がどれほど信頼できて欲得なく、一度仲間になれば決して裏切らないということから、今まで教えられた女性像が覆ったような気がしています。そんなことも女性のプラスのことも知っていかなければなりませんし、そういう今起きている問題を解決していくことをお願いしておきたいと思います。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。二つの点をご指摘いただきました。

高橋委員、お願いします。

(高橋委員)

四国大学の高橋と申します。先ほどからデジタル化ということが色々言われておりますが、このコロナの発生によって、デジタル化がとても重要であったかということが身に染みてわかったということがあります。大学の授業もオンラインをすることによって、今まで対面でしかできなかったことが家庭にいてもできるんだとか色んな経験ができました。それから最初の飯泉知事のお話にもありましたけれども、デジタル化を進めて、5G・Beyond 5Gを進めていくのは非常に重要なことだと思うのですが、また先ほど障がい者支援の方などのご意見もありましたけれども、色んなハード面が整ったとしても、それをいかに使うかが重要だと思います。我々ほとんどが機械は持ったけど、どう使うのか、プログラムを組んだりといった所ではなくて、ほとんどの者がソフトを使って、アプリを使ってどういう風に上手く使いこなすかといった立場の者です。ですから、単にデジタル化というハードを整えるのもまず大事だと思うのですが、やはり一般の県民が使いやすい、わかりやすい、教育にも活用できるようなアプリを開発していくところにも力を入れていただいて、そういう人たちの育成も考えていただけたらなと思います。せっかく整った設備が無駄にならないように、それから我々が上手くそれを使えるようにというところにも力を入れていただけたらと思います。私はデジタルが専門ではありませんが、栄養的などころであったり、色んなところがデジタル化によって広がっていくことはわかりきっていることですので、是非色々ハード面、ソフト面に力を入れていってください。以上です。

(山中会長)

確かに、DX化、教育の分野でどんどん装置は入ってくるのですが、どう使いこなしていか。ユーザー教育、あるいはユーザーインターフェースの部分を作っていただくデザイナーの方の重要性を指摘いただきました。

川原委員、お願いします。

(川原委員)

令和3年度に向けた計画ということですが、膨大な資料をまとめていただいた皆さんにご慰労申し上げたいと思います。この計画ですが、令和元年度の実績・検証、プラスコロナであったかと思うのですが、一番影響を受けた令和2年度をしっかりと検証していくこ

とが必要であろうかと思しますので、この間に進められた事業や滞った事業等々をしっかりと検証いただいて、これからの計画実施に活かしていただけたらと思しますので一つよろしく願い申し上げます。

それともう1点、色々こういった状況下の中で、県民の気分を持ち上げるためには文化やスポーツは非常に重要になるかと思えます。今回ヴォルティスもJ1ということで県民も期待していると思えます。スポーツの部門では、昨年県内の中学生が全国陸上大会で優勝をいたしました。これまでも県西部や南部から高校進学の際に、徳島市や鳴門、阿南などそれぞれの競技に優れた学校へと案内をいただいておりますが、今回お話を聞くと県外の方へ行ってしまうということなんです。やはりここで育った子供ですので、県内で育てていただくことが必要かと思えます。そういった中では、選手はもとより指導者も育てていくという形で進めていただければと思しますので、どうぞ一つよろしく願いします。

(山中会長)

アスリートの定着も重要なテーマですね。ありがとうございます。

榑野委員、お願いします。

(榑野委員)

森林組合連合会の榑野です。県産材の輸出について、去年コロナの影響で3月頃から木材価格が下がり、色んな出荷の制限などがあった中で、とくしま森林づくり推進機構で輸出に取り組んでいただきまして助かりました。ありがたいと思っております。重点項目の中にも印がついておりますので、継続してこういうチャンネルを持っていかなければならないと思っております。なかなか森林組合関係、独自に輸出に取り組む力が無いところばかりなので、非常にありがたいと思っております。輸出なり県内での使用もそうですが、そういったものを支える生産量の拡大が県の方でも目標があって、今取り組んでいる所ですが、人の問題、機械の問題、道の問題があると思えます。私は今とにかく作業道を抜いたり色々やっているのですが、その元となる林道を延長していくことは非常に重要だと思っております。県内色々山も違うし、状況も違うと思うのですが、作業道を開設していくにしてもなんにしても、元になる林道があれば、世に出る山もまだまだ増えてくるわけで、よろしく願いしたいと思えます。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。作業道をちゃんと作っておくと、ドイツなどは何百年ももつような森林を持っているというのを前にお聞きしました。

唐崎委員、お願いします。

(唐崎委員)

阿波民族芸能文化保存会の唐崎と申します。よろしく願いします。本当にコロナ禍の中で、これだけの資料や色々なこと、ご苦労様です。本当に知事をはじめ県を引っ張ってってもらっているのを、この資料とともに色々なニュースとともにいつも拝見して心強

く思っております。

昨年、民俗芸能なんですけれども、コロナ禍で祭礼やお祭りがほとんど中止になりました。その中で限界集落を抱えている部分もありまして、このままお祭りが無くなっていく地域が増えてくるのではないかと予想されています。そして、その中で色々考えていますと、博物館が今年グランドオープンになるということで、世界のどこにもない徳島が色々な面からみられるのではないかと楽しみにしているのですが、中止になったりですとか、なにか無くなりそうな祭礼を、今の時代ですので先ほどから出ましたデジタルということで、バーチャルという形で博物館に収蔵できて、それを世界発信また県外から来た方にはバーチャルで見させていただくというのができるのと、一つの色が博物館に加わるのではないかなど。後、民俗芸能、徳島は400年以上の歴史を持っている世界でも類を見ないものが残されておりますので、そういったものをこの機会に無くすのではなく、保存してまた新たな形に。そのままでは継承できないかもしれないんですけど、次世代へ新しい形で何か発信できるのではないかと思います。それが、青木委員がおっしゃたマイクロツーリズムでの魅力発見や、そういったものに繋がっていくと思いますし、観光や教育へと繋がると思いますので、またご検討いただければと思います。ありがとうございます。

(山中会長)

そうですね。色んな習わしが途絶えていくのは悲しいことです。特にやはりそういうものを新しい価値を持ったものに変えていくタイミングなのかなと思いますので、皆さんにご支援をよろしくお願ひします。

松崎委員、お願ひします。

(松崎委員)

NPO法人子育て支援ネットワークとくしまの松崎と申します。よろしくお願ひいたします。私たちは徳島市の経済政策課から委託を受けて、籠屋町商店街の方で乳幼児の子育て支援、子育てほっとスペースすきっぷを運営させていただいております。今回すきっぷの中ではもちろんなんですけれども、徳島県の方でもオンラインでの子育て支援ということで、子育て世帯繋がり支援事業ということで、リモートで、孤立させないお母さんの支援をしています。その中で色々お母さんのお話を聞いた中で、産後鬱が倍増していることがありました。これは国の方からも言われてますけれども、そのオンライン事業についてNHKテレビの方でも放送していただいたんですけれども、その翌日に80代のおばあちゃんからお電話があって、20歳の孫が今1歳の子育てをしていて、毎日死にたい死にたい言っている、産後鬱だということで。こんにちは赤ちゃん事業が、生後4カ月まで保健師さん、助産師さんや保育士さんが訪問する国の事業であるのですが、生後4カ月までなので徳島市は生後2カ月の早い段階で訪問してくださっているのですが、それ以降、20歳のママは3カ月までは楽しい、可愛いで済んでいたらしいのですが、4カ月以降から笑顔が無くなって、毎日死にたい死にたいということをおっしゃってました。

今、産前・産後ケアですね。子育て世代包括支援センターが、各市町の保健センターにできているんですが、宿泊型産後ケアという意味では、宿泊型24時間見守ってますよというところで、宿泊できるような体制を組まれている包括支援センターもあるのですが、

産後しんどいお母さんが宿泊型の所を使用しようとしたら、産後鬱の証明書があると云われたそうなんです。ママたちは、鬱になってからでは遅いと、鬱になる前の予防として、しんどい時にSOSを出して助けてほしいなという。今、市町の方でも子育て世代包括支援センターをどんな形で、地域ともしくは専門家とつながっていくかと模索中だと思うのです。ママにとって本当にベストな状態として。特に、赤ちゃんを子育てしているママから言われました、「コロナ関係無しに子育ては自粛生活」だと。さらに、コロナということで出産を初めて迎える方への面会も限られていたりとか、母親授業・両親学級がすべて中止になっているので、産婦人科に行くと紙一枚渡されて、何日に来て下さいと言われて、すごいお母さんが不安な状況であります。産前ケアをととても重要視していただきたいのと、子育て世代包括支援センターだけではなくて、私たちのようなすきっぷ、地域子育て支援拠点事業、これは社会福祉法第二種事業に位置づけられています。私たちが15年程前から言ってるんですけども、生まれる前からすきっぷデビューということで、生まれてからの施設ではなくて、生まれる前から夫婦もしくは妊婦さんだけでも利用して、すぐにも使える場所であるということを企業さんに是非お伝えしていただきたいな、産休を取られる職員さん、特に働いている方に対して、産まれてすぐに悩みがあれば地域子育て支援拠点事業があるんだよ、子育て世代包括支援センターがあるんだよということで、企業の方が産休を取られる職員さんに向けて、こういう施設があるということを何か起きてからではなくて、虐待の第一次予防、産後鬱の予防型ということで企業の協力もしていただきたいと思います。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。人間は地域とか全体で協力して子育てしていく動物なんだと認識しながら、みんなで助けていくのが重要なんだと思いながら聞いていました。

山上委員、お願いします。

(山上委員)

県医師会の山上です。連日マスコミではコロナワクチンの話題が一番に取り上げられています。現在県が中心になって、県医師会も一緒にワクチン接種調整会議がもたれています。もともと報道でも言われているとおり、国のワクチン入手状況も不透明でありますので、毎日のように状況が変わっているようですけども、いずれにしてもかかりつけ医も医師会も頑張るぞということで積極協力の意気込みでございます。ただ打つということは専門ですからいいんですけども、ロジスティックスに関しましては、やっぱり行政や専門業社の力が不可欠ですので、その点よろしくお願ひしたいと思います。それと今、診療所での個別接種を中心として、集団接種で補うという練馬区モデルが先進事例として紹介されていますが、医療機関が多い所はいいんですけども、郡部での対応につきましては郡医師会単位であったり、広域の県全体でサポートする感じであったり、広域で協力する体制を県の方でしっかりサポートしていただいて、市町村現場での接種体制の構築がスムーズにいくようにしていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

(山中会長)

ありがとうございます。ご指摘なるほどと思いました。なかなか中身が難しい話です。郡部等との広域的協力体制を作る、特にコロナワクチンの接種体制、国難の対応として一番重要なところですね。

小谷委員、お願いします。

(小谷委員)

自主防災組織の小谷です。いつもお世話になっております。本年度、来年度も予想されているのですが、コロナの影響で各自主防災組織の避難訓練がほとんど行われないう状態になっています。それで自主防災組織は町内会ですので、いずれは復活して皆さんにやっていただくように、県の自主防災も防災センターと協力して、各団体に協力を求めています。これを復活した時、来年度、再来年度、行政の助けが必要かと思っておりますので、スムーズに自主防災組織が避難訓練を行うにあたって、できましたら今のうちから準備をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

(山中会長)

はい、おっしゃるとおりです。そういうものも途切れてしまうと大変ですね。

近森委員、お願いします。

(近森委員)

徳島県国際交流機構の近森と申します。私の方からは2点申し上げます。1つは国際交流ということで、前回も申し上げたのですが、なかなかリアルでお会いすることができない中で、アフターコロナに向けて様々な施策を打っていただいていると思います。そして重点項目には入っていないとはいえ、進捗管理をしていただけるということで是非アフターコロナに向けて皆さんが実際に会うことができる、交流ができるような繋ぎをしていただければと思います。

もう1点が、やはりWITHコロナにおいてオンラインが非常に重要になってきていると思います。先程から色々な委員のお話にもありますとおり、テレワークっていうものが進んでいくと思うんですけども、知事もおっしゃったとおり、脆弱性もすごく顕著になってきました。色々な方、多くの方がテレワークをすると、やはり回線が遅くなって、様々なシステムやツールはあるんですけども、なかなか遅延が発生して業務が進まないとなると、そもそも業務の効率も下がってしまうということで、今回主な見直し項目ということで、ローカル5G環境を活用した県域高速ネットワークを構築されるということで、徳島県が5Gというところで、すごく先進的だという部分をアピールしていただければと思います。そうすることでテレワークが進むと、働く場所は選べるようになってきますので、徳島県を選ぶという選択肢はすごく広がると思いますので、是非そうしていただければと思います。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。2点いただきました。国際交流に関しては、とにかく人材を維

持していただいて、次の段階に備えていただきたいと思います。オンラインについては自分の不具合がわからない、相手にはわかるという所が非常に悩ましいところです。

真鍋委員、お願いします。

(真鍋恵美子委員)

会計士の真鍋です。移住者を徳島に増やそうということで、徳島に興味をもってもらうような施策が今回たくさん盛り込まれていると思います。オンラインで魅力を発信するようなものがあるんですけども、一方的に徳島から発信するだけではなくて、それだと徳島に興味のある方しか見ていただけないと思うのですが、例えばインフルエンサーですね、影響力のある。InstagramでもYouTubeでもいいんですが、そこである程度既に見てくださる人がいるような方に徳島を紹介してもらうようなものにしていただくと、徳島に興味が無くてもそれをきっかけで見て、こんなことを徳島やってるんだと知ってもらい、来ていただけると。ファンが付いていれば、彼らが来た所に行きたいと思う人もいると思うので、そういうのを考えていただければいいなと思いました。

(山中会長)

ありがとうございました。デジタルマーケティングの分野ですよ。こういうのはお金をかけるより、人材から入るのがいいかなと僕は思っておりますので、おっしゃるとおりです。

内藤委員、お願いします。

(内藤委員)

徳島県市長会の内藤です。よろしくお願いします。まずは時間が無い中で、きれいにまとめていただいた事務局に感謝します。お疲れ様です。ありがとうございました。意見なんですけれども、見直し項目を特に拝見させていただいて、市としても県の施策にしっかりと乗っていく、連携する、補完するということをしっかりとやっていきたいなと改めて思いました。コロナで各自治体の税収が減ることも予想されますし、そういう文脈でも補完するという部分をしっかりとやっていければなと思います。例えば先ほど青木委員さんから、アワーケーションなどの話も出ておりましたが、西部と南部が頑張っているというご意見をいただいて東部は頑張っていないということかなと思いましたが、徳島市ではコワーキングスペースも作っておりますし、T I Bさん、阿波銀さんの方でも、コワーキングスペースを作っていただいたりしているので、やはり中心部でも一緒になってアワーケーション推進を頑張っていきたいなと思いますし、G I G Aスクールも義務教育の部分は各基礎自治体がやっていく部分ですので、そういった部分も連携してやらせていただきたいと思います。

また先ほどワクチン接種のお話もございましたが、ワクチン接種につきましても、ホールについても連携して、今後とも一緒になって県を盛り上げていきたいと思いますので、今後とも市長会とも徳島市とも連携を密にして、県を元気にしていきたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

(山中会長)

ありがとうございます。中心部のバージョンアップが全体のバージョンアップになりますからね。重要ですよ。

瀬尾委員、お願いします。

(瀬尾委員)

NPO法人協働プランニングNIMSの瀬尾と申します。男女共同参画社会づくりの推進をしております。今年度ですが、女性活躍ワンストップサービスセンターがフレアの後、アスティの二階に開設される予定であります。今コロナ禍においてオンラインセミナーが増えておりまして、私どもも色んなセミナーに参加したり主催しようとした時に、フレアが使えなかったんですね。是非ともこのワンストップサービスセンター、オンラインセミナーなど開催できますように、Wi-Fi設備よろしくお願いします。県の方でWi-Fiスポットがホームページに出ておりまして、他の会場はWi-Fiの設置数が多いのですが、アスティが一個でしたので、是非ともオンラインセミナーがどんどんできるような状態に今からでも間に合いますのでよろしくお願いします。

(山中会長)

ありがとうございます。中副会長、お願いします。

(中副会長)

中です。お世話になります。知事の冒頭のご挨拶のように県民には知事の声が届いておりません。新聞が毎日のように厳しく知事のことを書き立てているんですけどね、教育されてしまいますので。知事の冒頭のご挨拶にあったような内容を県民に広く進めていってほしいな、どんな方法でみんなの耳に入るのかなと、私、日々考えているんですけど。これだけ県庁の職員さんがいますので、みんなが宣伝マンになって言ってくださればいいのかなと思っております。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。金副会長、お願いします。

(金副会長)

デジタル社会は今非常に注目されておりますけれども、その一方でデジタル弱者ですね、全然使えない人、または孤立している人もたくさんいるわけで、そういったことも十分考える必要があるということです。それから我々人類の歴史が活発な移動と集合によって発展してきたということを考えると、これからの社会はどうなるのだろうかという不安があります。人と関わるのがいかに大事であるか、また考えさせられる今の時代ではないかなと思いますし、そのための地域社会の在り方を考えてほしいですよ。

(山中会長)

移動は人類歴史的には絶対増えてまして、いくらオンラインの素晴らしい装置ができて、結局は移動は戻っているというのが人類の歴史です。電話が発見された時も、そういった話題がどんどん出たんですけども、結局は増えたんですよ。というような話もありますし、集まって社会活動をしないと人間生きていけないですからね。おっしゃるとおり、アフターコロナは今僕らが対応している社会とは少し違うのかなという感触です。ただなにか違った物になると感じてますので、そこを見極めて施策を打っていただくのは非常に重要なこととお聞きしておりました。大変たくさんのご意見いただきました。

最後に知事から、ご発言頂いてよろしいでしょうか。

(飯泉知事)

どうも大変貴重な意見ありがとうございました。それぞれのお話確かにWITHからアフターをとということ、こうした点については我々としてもしっかりとまた皆様方とともに力をあわせてという形で進めたいと思います。二点だけ。まず山上先生から出たワクチンの話ですが、これは河野大臣がワクチン担当大臣となりましたので、全国知事会として直ちに協議をさせてもらいまして、どうも厚生労働省なりが考えた接種のやり方は東京とか大阪を中心に考えて、いわゆる基本型接種施設ひとつに対し、連携型接種施設を三つとする。そこはみんな地域の診療所の先生方もおいでと。しかしそれは23区や地下鉄がある所はいいんですが、うちの三好市を考えたらととてもじゃないけど、それは難しいですよということを申し上げて。そういった点について例えばファイザーのやつは-70℃ですが、分けてそれぞれの地域の診療所をもってそこで打つとか、そういった地域に合った形をもっと考えてもらいたい。これは直ちにやろうということになっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それから根本的な話ですが、中副会長さんからお話にあった点については、確かに色々な会の時に言われるんですね。県でこだけやってなんで県民に伝わっていないんだと。もっともっと色々なツールでもって伝えるべきだとかこうした話がありました。例えばコロナの毎日の発表などについて、大抵私がやる分もあるのですが、大体トレンド的に減少傾向になると部長がやるのですが、YouTubeの徳島県サイトの方で、わりと見やすくさせていただいたり、こういった場面も本当であればYouTubeで流していくとか、そうした形をとる、あるいは県政広報番組もありますので、こうした所でしっかりと今、中副会長さんが言われた点、もっともっと発信を皆さん方もそういう情報を求めているという声もたくさんお聞きしておりますので、工夫をより凝らしていきたいと思ひますのでみなさん貴重な意見本当にありがとうございました。

(会長)

最後に、事務局から連絡事項があります。

<事務局説明>

- ・会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。
- ・今後のスケジュールについて、本日からパブリックコメントを実施した後、県議会2月

定例会に提案し、ご審議いただく予定。

- ・ 次回の開催日は、令和4年2月上旬を予定しているが、山中会長と相談の上、改めてご連絡させていただく。

～以上～